

暑中お見舞い 申し上げます



連日厳しい暑さが続いておりませんが、皆様にはお元気で過ごしていることとお喜び申し上げます。

春先から今日までを振り返りますと、ひたすら耐える日々が続く連続であったように思います。

6月には激しい雷雨や集中豪雨による災害が多発しました。また、宮崎県で発生した口蹄疫の影響により、農家の方々をはじめ、

商業・運輸など関係者の方々におかれましては、長期間にわたり精神的にも経済的にも大変なご苦勞の日々でございます。

このような災害や危機に直面した時、安全で安心して暮らせる環境がいかに重要であるかを痛切に感じます。私は常々、

政策のあり方として防災、福祉、食糧や水の安定供給など、いわゆる『安心・安全』の政策を基

盤とし、機をもって観光、企業

誘致、高速道路の建設促進など『地域活性化』の政策を展開していくことが重要であろうと考えています。

先月、町民の皆様から大崎町の未来について提言をいただく『おおさき未来検討会議』がスタートいたしました。そのほか、

児童が夏休みでも学習できる『遊びの学校（NPO主催）』の開校、企業間交流を促進する『大崎ものづくりネットワーク振興会』

の発足など未来に向けた可能性を探る動きも活発になってまいりました。

さて、南アフリカで開催されたサッカー・ワールドカップにおける日本代表チームの戦いから拍手を贈りたいと思いま

す。体格や技術で上回る対戦国を相手に、まずはしっかりと守

りを固め相手の攻撃に備える。しかしチャンスと見るや攻勢に

転じ、果敢に勝利を狙う。その戦術とチームワークで世界を驚かせたことは国民の記憶にも新しいところですよ。

目標を高く掲げ、これを成し遂げようとする時、私たち日本人はその最大の武器がチーム

ワークであることを潜在的に知っています。私は3期目の出馬にあたり『みんなであつくり、

おおさき』という言葉を政策スローガンとして掲げました。本

町はまだまだ可能性を秘めた地域です。この可能性を掘り起こすためには大崎町民のチーム

ワークが欠かせません。みんなで力を合わせ口蹄疫を阻止できましたように、みんなまで3年連

続リサイクル率日本一を達成できましたように、必ずや未来の大崎を切り開くことができますと

確信しています。中国の兵法書『孫子』はこう指摘します。機を見る上で大切

なのは陰陽・寒暑・時制である。負けないためには守勢、勝つためには攻勢であると。その上で、

守備重視の戦略こそが勝つ秘訣という考え方を尊重しています。

この戦略を政策に置き換えると、守勢が『安心・安全』の政策であり、攻勢が『地域活性化』のための政策であるように感じています。苦難を乗り越えようとする今、身の回りには様々な兆しが現れています。まさに攻勢に転じる絶好の機会かもしれません。そして、いざ攻めに転じる時は雷震のごとくありたい、そういう思いを秘めながら今後の町政運営に努めてまいります。まだまだ暑い日が続きます。皆様にはくれぐれもご自愛ください。心からお祈り申し上げます。暑中のご挨拶といたします。

平成二十二年盛夏

大崎 町長

他職員一同